

夫婦二人三脚で活躍中 佐藤有司さん 友美さん

高木地区の担い手として活躍している佐藤有司さんは、昭和43年生れの51才で働き盛りです。高校卒業後、花巻農協に就職、平成14年3月まで勤務したあと就農しました。当時、お父さんの佐藤純悦さん(77)は農地をすでに20ha程耕作していました。有司さんが引き継ぎ、さらに農地の集積を重ね、現在の耕作面積は約47haに上っています。内訳は、水田20ha、小麦11ha、雑穀4.6ha、大豆7ha、枝豆3haとなっています。家族経営協定を締結し、有司さんご夫妻と両親の4人で経営していますが、繁忙期にはパートさんにも手伝ってもらいます。他に長男の宇宙(こすも)君(高校3年生)も後継者として自覚しており手伝ってくれるそうです。この大規模経営には、奥さんの友美さん(44)の活躍が目覚ましく、平成26年花巻農協退職後、大型特殊やフォークリフト、けん引免許などを取得し、現在では、大型トラクタなどを自由自在に操縦して夫の有司さんを助けています。やはり耕作面積47haもの経営には奥さんの協力は必須で、奥さんには感謝していると言っていました。作業は機械化されており50馬力を超えるトラクタ7台、田植え機、コンバイン、乾燥機3台など大型農業機械が揃っており、また、農舎2棟、水稲育苗ハウス9棟な



ど、桁違いの設備です。地域の後継者不在などによる農地や近隣農地を積極的に集積し、担い手不足であった集落営農の維持発展に尽くしています。また、個人経営体のリーダー的存在として精力的な動きをみせ、地域の農業振興に貢献しています。お話を聞いてみると、従来の農業経営者にはない企業経営的な感覚での経営であり、これからの農業経営のモデルだと思われました。その活躍は、第13回花巻市農業賞賞農部門を受章されるなど高く評価されています。今後の抱負は、法人化等も視野に入れながら、益々の農地集積・大規模化を目指し、地域の要望にもできるだけ答えていきたいと意欲的でした。

取材・編集委員 佐藤耕太郎、事務局

農業者年金制度説明会を行います

農業者年金制度を広く知っていただくため説明会を行います。農業者なら誰でも入れる「**終身年金**」で、事務経費は国が負担しているため払った**保険料は全額が運用される**などメリットが盛りだくさんです。この機会にお気軽にご参加ください。

期日 令和元年11月11日(月)から15日(金)

時間 午後1時から午後4時まで(予約不要)

場所 花巻市農業委員会事務局
(花巻市野田307番地2)



湯本地区期待の新人 杉村正和さん 純子さん



杉村正和さん(41歳)は、平成29年に就農した地域のホープです。黒沢尻工業高校を卒業後、大手農機具メーカーに就職し、長年製造関係に携わっていましたが、忙しくて自分の時間が取れないことや、家族の不幸が続き、農業の稼ぎ手がいなくなり、兼業では管理が行き届かないこと。また、消防団に加入しており、地域等の行事にも参加が難しいことから退職を決意したとのこと。現在の水稲作付面積は所有地を含め5.7haで、中間管理機構から3.1haを借受し経営しています。今後の目標面積は10haで、当面の間は水稲栽培に特化し徐々に規模拡大が出来ればと望んでいます。

また、先進技術であるスマート農業にも興味があるようですが、価格面が心配なので支援がなければ取り組めないとのこと。家族は、妻純子さんと中学2年の息子さんとの三人暮らし。純子さんも農業に専念しています。特に息子さんは、機械に大変興味があり、様々な機械を駆使し、草刈り作業等を率先して手伝うなど頼もしい後継者に育っているようです。農業委員会が進めている家族経営協定はこの家族に有効なものになるかもしれません。追々には農業者年金にも興味を持ってもらいたいです。地域の高齢化が進むなか、このような若い方が就農し、意欲的に農業に取り組んでくださることは地域にとっても大いに励みになることです。前の会社からのアルバイトの要請にも応えながら、地区内でも消防、農家組合、青年部など幅広い活躍が期待されます。

取材・編集委員 八重樫 光喜

家族経営協定合同調印式

3月末日、農地利用最適化推進委員の家庭2組が家族経営協定を締結する運びとなり、合同調印式を開催しました。締結したのは、大迫町内川目の佐々木久夫推進委員と石鳥谷町滝田の宇津宮保志推進委員です。それぞれ稲作や果樹栽培を家族経営で行っており、「家族の協力なしには経営は成り立たない」「家族に感謝している」とコメントしていました。この後、石鳥谷町黒沼でも1組新規就農者の締結があり、花巻市内の協定締結世帯累計は137組となりました。



宇津宮保志さんと佐々木久夫さん

農業者年金研修会

8月7日、盛岡市の岩手教育会館で一般社団法人岩手県農業会議主催の農業者年金加入推進特別研修会が開催され、県内の農業委員、農地利用最適化推進委員、農協の担当者などが参加しました。「加入推進取り組みの事例発表」を当委員会の昆正委員が行いました。昆委員は、平成28～29年度の農業者年金新規加入に導いた者の合計が県内1位であることから発表者に選ばれました。加入につながった事例やつながらなかった事例もまじえて発表を行いました。



事例発表する昆正委員